

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-107050

(43)Date of publication of application : 19.04.1994

(51)Int.Cl.

B60N 2/04

(21)Application number : 04-033287

(71)Applicant : PEUGEOT SA <PSA>
CITROEN SA
BERTRAND FAURE AUTOMOB BFA

(22)Date of filing : 20.02.1992

(72)Inventor : JOUDOUX GERARD
GALLIENNE DIDIER

(30)Priority

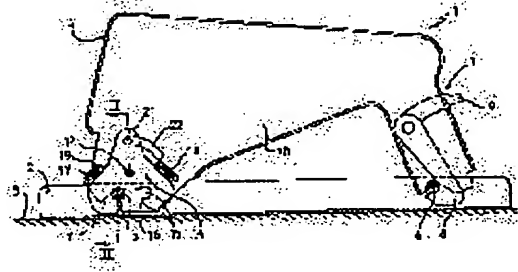
Priority number : 91 9102051 Priority date : 21.02.1991 Priority country : FR

(54) REMOVABLE CAR SEAT

(57)Abstract:

PURPOSE: To easily engage a seat in the usage position and to easily remove the same from a vehicle by enabling rods to pass through notches of a latch and a frame opposed to each other simultaneously, when the rods are restrained at one of the ends of a hole and the seat is in an intermediate inclined position between two positions.

CONSTITUTION: In an intermediate inclined position, a pivot 12 is approximately perpendicular to rods 5 and two notches 11 and 16 of a frame and a latch. Since the two notches are opposed to each other, the rods 5 are not restrained but pass through the two notches at the same time and accordingly completely lift the seat which can be then removed from the vehicle. In order to put the seat back to its position, the seat is set in the inclined position of the rods 5. Each of the latches 14 swings around its pivot 12 and is restrained in a hole 22 in the side plate by a piece 21. The size of the hole enables the pivotal movements of the latches with respect to the frame 4 from one position to the other corresponding to the usage position and the lifting position of the seat.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 20.02.1992

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 1998463

[Date of registration] 08.12.1995

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

19.04.1999

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-107050

(43) 公開日 平成6年(1994)4月19日

(51) Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 0 N 2/04

審査請求 有 請求項の数10(全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平4-33287

(22) 出願日 平成4年(1992)2月20日

(31) 優先権主張番号 9 1 0 2 0 5 1

(32) 優先日 1991年2月21日

(33) 優先権主張国 フランス (F R)

(71) 出願人 591015740

オトモビル プジヨ

フランス国 パリ, アブニュ ド ラ グ
ラード アルメ, 75

(71) 出願人 591015751

オトモビル シトロエン

フランス国 ニューイ シュル セヌ,
ブルバール ビクトール ユーゴ, 62

(74) 代理人 弁理士 浅村 皓 (外3名)

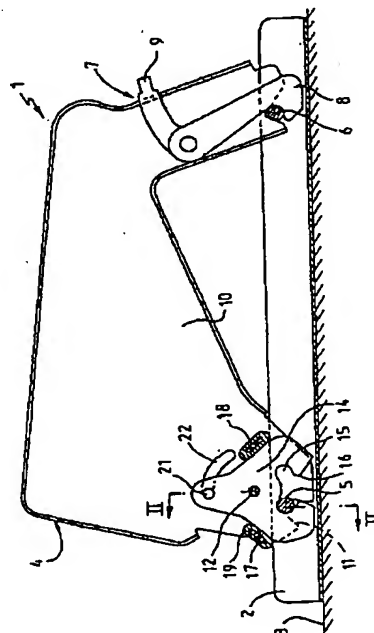
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 車両用取外し可能椅子

(57) 【要約】

【目的】 使用位置と前倒し位置とに交互に固定し得る車両用取外し自在椅子を提供する。

【構成】 椅子の基礎枠(4)は床に並置された二つの横棒(5)の回りを揺動することができ、該横棒はそれぞれ枠の二つの切欠きの中に受入れられる。各切欠き(11)と関連する掛け金(14)は枠(4)上において駆動し、かつ湾曲した孔(15)を有し、椅子が傾斜位置にある時に枠の切欠きと対するように配置された下方切欠き(16)が、前記孔の中に開口し、この位置における自動収放を可能にする。この椅子は特に自動車の後方部分における種々の用途に対して有用である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 車両用椅子で、その基礎枠（4）が後方に、椅子を車両の床に掛止して使用位置に維持する装置（7）を有し、前方には椅子の使用位置と、床から離れた持上げ位置との間で椅子を揺動させるための横軸を形成する、それぞれ床に固定された二つの棒（5）と係合し得る二つの下方切欠き（11）を有し、前記枠上を揺動し、かつ各切欠きに近接する掛け金（14）が該切欠きの底部に、対応する棒を維持し得るようになっている椅子において、各掛け金（14；23；26）がその揺動軸（12）の下に、対応する棒（5）を受入れるための、前記軸（12）上に中心を有する円弧よりなる孔（15、15a）と、該孔の中央に開口する下方切欠き（16；16a）とを有し、椅子が使用位置または持上げ位置にある時に、前記棒が該孔の端部の何れかの中に拘束され、かつ椅子が前記二つの位置の間の傾斜位置にある時に、相対して位置する掛け金と棒との切欠き（16、11）を同時に通過し得るようになっていることを特徴とする椅子。

【請求項2】 椅子が傾斜した時に、床に対する掛け金（14；23；26）の回転を阻止する装置（17、18；18a；27、28）を有している請求項1記載の椅子。

【請求項3】 前記阻止装置が各掛け金（14、23）の二つの延長部分（17、18；24、25）よりなり、該延長部分がそれぞれ揺動軸（12）の前方および後方において床に固定された部分（20；20a）に衝当する請求項2記載の椅子。

【請求項4】 前記二つの延長部分（17、18）が横方向に延び、かつ棒（5）を支持する部材（2）の各上縁（20）に衝当する請求項3記載の椅子。

【請求項5】 掛け金（23）が棒（5）を支持する部材（2）の底部（2a）に衝当する二つの下部延長部分（24、25）を有している請求項3記載の椅子。

【請求項6】 阻止装置が掛け金（26）の延長部分（18a）を有し、該掛け金が揺動軸（12）の後方部分に位置し、かつ掛け金および棒（4）に連結されたばね（27）によって床に固定された部分（27）に対して支持されている請求項2記載の椅子。

【請求項7】 棒（4）の各切欠き（11）の近くにおいて該棒に固定されたクランプ（28）が、対応する棒（5）と共働し、椅子が床上に静止した時に、該棒をこの切欠きの底部に維持し、かつこのクランプの弾性的変形によって棒が切欠きを通り得るようになっている請求項6記載の椅子。

【請求項8】 棒（4）および各掛け金（14；23；26）が、装置（21、22；23a、23b、4a、4b）を有し、椅子がそれぞれ使用位置および持上げ位置にある時に、掛け金が棒に対して占める位置に近い二つの位置における該掛け金の揺動を制限するようになっ

ている前記請求項の何れか一つに記載の椅子。

【請求項9】 掛け金（14、26）の揺動を制限する装置が、該掛け金に固定された横指片（21）よりなり、の指片が掛け金揺動軸（12）を固定した棒（4）の側板（10）内に形成された孔と係合する請求項8記載の椅子。

【請求項10】 掛け金（23）の揺動を制限する装置が、該掛け金の二つの上縁（23a、23b）よりなり、掛け金揺動軸（12）を固定した棒の側板（10）の二つの縁（4a、4b）に衝当する請求項8記載の椅子。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は車両用取外し自在椅子において、普通の使用位置と、特に背板を基礎枠の上に倒した後に、前方に倒すことによって得られる釈放持上げ位置とに交互に固定し得る椅子に関する。

【0002】

【従来の技術】 このような椅子は一般に基礎枠の下に、該枠を車両の床に連結するための、後部掛止装置と、前方横軸の回りを揺動する釈放可能装置とを有している。

【0003】 この釈放可能装置は床に形成された孔、または該床に固定された部材と係合する棒の二つの指片、あるいは床に固定された横軸と係合するように、棒に形成された二つの下方切欠きを有している。前記切欠きを棒に対して維持し、かつ車両から椅子を取外すための釈放を可能にするために、該棒上には掛止装置が配置され、二つの掛け金がそれぞれ二つの切欠きと関連し、かつ操縦機構によって作動し得るようになっている。この機構は多くの場合、複雑で近接が困難であり、後部掛止装置を必要とし、したがって椅子は比較的高価となり、これを車両から取外すには必然的に揺動釈放装置の困難な操作が必要となる。

【0004】

【発明が可決しようとする課題】 本発明の目的は前述の不便を解消し、かつ車両用転倒式椅子で、使用位置に掛止し得ると共に、車両から容易に取外し得る椅子を簡単な態様で製作することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 したがって本発明は車両用椅子で、その基礎枠が後方に、椅子を車両の床に掛止して使用位置に維持する装置を有し、前方には椅子の使用位置と、床から離れた持上げ位置との間で椅子を揺動させるための横軸を形成する、それぞれ床に固定された二つの棒と係合し得る二つの下方切欠きを有し、前記枠上において揺動し、かつ各切欠きに近接する掛け金が該切欠きの底部に対応する棒を維持し得るようになった椅子に関する。本発明によれば、各掛け金はその揺動軸の下に、対応する棒を受入れるための、前記軸上に中心を有する円弧よりなる孔と、該孔の中央に開口する下方切

3

欠きとを有し、椅子が使用位置または持上げ位置にある時に前記棒が該孔の端部の何れかの中に拘束され、かつ椅子が前記二つの位置の間の傾斜位置にある時に、相対して位置する掛け金と棒との切欠きを同時に通過し得るようになっている。

【0006】椅子はこれを倒した時に、床に対する掛け金の回転を阻止する装置を有するものとなすことが望ましい。

【0007】第1実施例においては、前記阻止装置は各掛け金の二つの延長部分よりなり、該延長部分はそれぞれ駆動軸の前方および後方において床に固定された部分に
10 衡当する。

【0008】前記二つの延長部分はたとえば、横方向に延び、かつそれぞれ棒を支持する部材の上縁に衡当し、または前記掛け金が、棒を支持する部材の底部に衡当する二つの下部延長部分を有している。

【0009】第2実施例によれば、前記阻止装置は掛け金の延長部分よりなり、該延長部分は駆動軸の後部に位置し、かつ掛け金および棒を連結するばねにより、床に
20 固定された部分に対して支持される。

【0010】この後者の型においては、なるべくは棒の各切欠きの前方において、該棒にクランプが固定され、このクランプが対応する棒と共働し、椅子が床上に静止している時には、棒をこの切欠きの底部に維持し、しかもクランプの弾性的変形によって棒が切欠きを通り得るよう
30 になされる。

【0011】本発明の他の特色によれば、棒および各掛け金は、椅子がそれぞれ使用位置および持上げ位置にある時に、掛け金が棒に対して占める位置に近い二つの位置における掛け金の駆動を制限する装置を有している。

【0012】掛け金の駆動を制限するこの装置は、該掛け金に固定された横指片よりなり、該指片は掛け金駆動軸を固定した棒の側板内に形成された孔と係合し、なおこの装置は掛け金駆動軸を固定した棒の側板の二つの縁に
40 衡当するようになった掛け金の二つの上縁をなすことができる。

【0013】

【実施例】本発明の他の特色は添付図面によって次ぎに説明する、取外し自在椅子の二つの実施例によって明らかとなる。図1および2は二つの縦方向レール2によつて支持された椅子1の下方部分を示し、図において一つだけが示されたレールは車両の床3に固定されている。椅子の基礎棒4は各レールに固定された二つの横棒5、6上に載置されている。棒の後方部分は鉤8を備えた普通の掛止装置7を有し、該鉤は各棒6と共働し、かつレバー9によつて作動される。棒の二つの各垂直側板10の下部前端には切欠き11が形成され、該切欠きは逆V字
50 形を呈し、丸みを付されたその底部は二つの棒の一つ5を受入れる。この棒は椅子を揺動させるための横軸を形成している。

4

【0014】この切欠き11の上方において、側板10に固定され、かつ横管13により他の側板（図示せず）上の類似の軸に連結された横軸12は、各側板に近接してこれと平行に形成された平らな掛け金14に対するピボットとして働く。この掛け金は軸12の下方に、該軸上に中心を有する円弧よりなる孔15と、該孔の中央に開口する下方切欠き16とを有している。この孔と切欠きとは棒5より大なる直径を有し、該棒が小さな遊隙によって移動することができ、かつ該切欠きは外方に突出する形を有し、棒との係合を容易にするようになっている。

【0015】硬質プラスチック材料よりなる保護キャップ19によつて覆われた、二つの掛け金の各横延長部分17、18は、それぞれ軸12の前方および後方で、レールの上縁20と接触している。このようにして掛け金は、棒がその二つの切欠き11によつて二つの棒5上に静止している限りは、床に対する回転が阻止されるよう
10 になっている。

【0016】掛け金に固定された横指片21は、側板10内に形成されかつ軸12上に中心を有する円弧状の孔22内に係合し、椅子が図3の破線によつて示されるように床から完全に離れた時に、掛け金の駆動を制限するようになっている。この時掛け金が軸12および指片21を通る横面に対してほぼ対称となることがわかる。

【0017】椅子が使用位置にある時は（図1）、棒の切欠き11は掛け金の切欠き16の前にあり、棒5は切欠き11の底部と、孔15の前端の内部とに拘禁されるようになる。鉤8が棒6上の定位にくれば、椅子は前にも後ろにもこの位置から動かないようになる。

【0018】レバー9によつて鉤8を外せば椅子の後方部分は、棒4が二つの棒5上において持上げ位置（図4）まで揺動することによつて持上げられ、この位置においては椅子の基礎棒はほぼ垂直となり、かつ床はレールの後方部分および中心とにおいて開放される。椅子が
30 このように前方に向かって揺動する時に、延長部分17、18が関連レールの上に支持されることにより、各掛け金14はほぼ非回転状態に留まり、かつ棒5の回りにおける棒の揺動は掛け金の軸12を前進せしめると共に、側板10の切欠き11を後退せしめ、椅子のこの持上げ位置においては、前記棒は切欠き11の底部および孔15の後端内に拘禁されるようになる。したがって椅子は再び確実に掛止される。

【0019】図3の実線によつて表された中間傾斜位置においては、軸12は棒5と、棒および掛け金の二つの切欠き11および16とに対してほぼ垂直となる。これら二つの切欠きは相対しているから、棒5は拘束されず、同時に二つの切欠きを通りしたがって椅子を完全に持上げ、続いて車両から取外し得るようになる。

【0020】椅子を元の位置に戻すには、図3の鎖線によつて示されるように、椅子が棒5上の傾斜位置に来る
50

5

ようにする。各掛け金14はその軸12の回りを揺動し、指片21によって側板の孔22の中に拘束されるようになる。この孔の大きさは、掛け金が棒4に対し、椅子がそれぞれ使用位置および持上げ位置にある時に占める位置の一つから他の位置に揺動し得るようにされる。掛け金の重心はその軸12と、その切欠き16との間にあり、椅子が床から完全に離れた時に、該切欠きはこの軸の下方に位置し、同様に側板10の切欠き11も椅子が傾斜した時には、ほぼ図3に示されるような位置にくる。したがって二つの切欠き11、16は向かい合い、かつこの図の実線によって示される如く、それぞれ棒5の上に垂直に係合する。この係合は二つの切欠きを底部の方に広がるように形成することによって容易になる。

【0021】図5の変型によれば、掛け金23は二つの下方延長部分24、25を有し、該延長部分はそれぞれ軸12の前方および後方においてレールの底部2aに衝当し、かつ該掛け金の揺動を制限する装置はその上縁23a、23bよりなり、椅子が完全に床から離れた時に、前記上縁が側板10の下縁4a、4bに衝当する。

【0022】図6から9までに示された実施例においては、掛け金26はただ一つの横延長部分18aを有し、該延長部分はその揺動軸12の後方におけるレールと、前述の掛け金14の場合と同様な横指片21とに衝当する。引張ばね27は棒4と掛け金26とに掛止され、レール2に対する掛け金の延長部分18aの支持状態に対応してこれを矢印Fの方に回転させるようになっている。したがって椅子がその切欠き11により、棒上に静止している限りは、掛け金は床に対して回転し得ない。各掛け金26は前記掛け金14、23の孔および切欠き(15、16)と同様な孔15aおよび切欠き16aを有し、切欠き11に対する棒5の掛止および釈放が、第1実施例の場合と同様に行われるようになっている。

【0023】掛け金26が床に対して回転しないから、ばね27は棒4をFと反対の方向に動かす。もしこのばねを、比較的大きな力を出すようにしておけば、椅子の前向き揺動運動と、鉤8が釈放された後における椅子後方部分持上げ運動とは楽に行われるようになる。

【0024】ばねの十分な力によって掛け金を持上げ、続いて延長部分18aおよびレール2の接触点の回りの揺動によって、その軸12および棒4を持上げるようにする場合、椅子が図8のbの傾斜位置にある時に、棒5を切欠き11の底部および孔15aの中に確実に維持するために、切欠き11の近くにおいて、側板10に固定されたクランプ28を設け、棒5をこの切欠きの底部に維持し、椅子を適当な位置に動かしこれを取外す時に、前記クランプの弾性変形によって棒が切欠きを通位得るようにする。側板10と掛け金26との間に位置するこのクランプはばね鋼針金よりなる挟み部材であり、棒5を部分的に包囲するようにC字形に形成され、かつその端部29の方に拡がった二つの分岐を有し、該端部は折

6

曲げられかつ切欠き11の二つの縁の前に位置する側板の二つの孔30内に係合している。

【0025】椅子の前部が床から離された時には(図8のa)、ばね27によって引かれた掛け金26が、該掛け金の指片21と側板10の孔22の後端との接触によって決定される位置を占めるようになる。この位置は椅子が持上げ位置にある時に(図9)、掛け金が棒4に対して占める位置とほぼ等しい。

【0026】椅子が適当な位置に動き、棒が傾斜しかつ切欠き11が棒5の上方向にくるようになれば(図8のa)、この棒は切欠き16aの後縁を形成する勾配部31上において、掛け金26の後部下方と接触する。この勾配部は底部後方に傾斜し、掛け金は椅子の重量によって、ばね27を引張しながらFと反対方向に揺動する。この勾配部31は前方に向かつて緩やかな凹状曲線を呈し、切欠き16aに対する棒5の導入と、Fと反対方向における掛け金の揺動開始を容易にするようになっている。

【0027】切欠き16aが側板の切欠き11と相対するようになれば、椅子の前部は下降し、係合した棒5が切欠き11の底部に達し、かつ図8のbに示されるように孔15aの中心に入り、この下降は椅子の重量により、場合によっては手によって椅子を下方に押し、クランプ28を弾性的に変形させることによって確実に行われる。

【0028】この後者の実施例においては、椅子の前方揺動を開始させる椅子後部の持上げ力は、ばね27の効果によって少なくて済み、かつ椅子の取外しは第1実施例の場合と同様に傾斜位置に動かすだけで行われ、これは前方揺動装置を自動的に釈放し、かつ車両を取外す場合の椅子の把握を容易にする。

【図面の簡単な説明】

【図1】図2の線II-IIに沿って取られた側部断面図で、使用位置にある椅子の下方部分を示す。

【図2】図1の線I-Iに沿って取られた断面図。

【図3】取付けまたは取外し位置にある図1の椅子の部分的側面図。

【図4】釈放持上げ位置にある図4の椅子の部分的側面図。

【図5】変形実施例の部分的側面図。

【図6】図7の線VI-VIに沿って取られた、図1と同様な断面図で、他の実施例による椅子を示す。

【図7】図6のVII-VIIに沿ってとられた断面図。

【図8】(a)は床から離れた取付けまたは取外し位置にある椅子の側面図。(b)は床上の取付けまたは取外し位置にある椅子の側面図。

【図9】持上げ位置にある椅子の側面図。

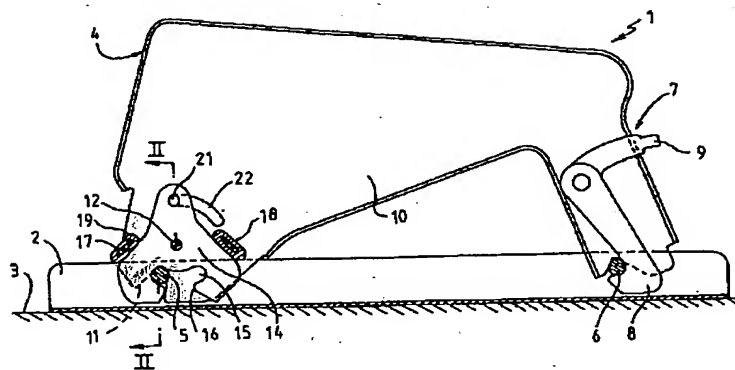
【符号の説明】

- 1 椅子
- 2 レール

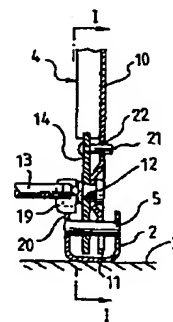
- 3 床
4 基礎枠
5 横棒
7 掛止装置
8 鉤
10 側板
11 切欠き
12 横軸
14 掛け金

- 15、15a 孔
17、18、18a 延長部分
20 頂縁
21 指片
26 掛け金
27 ばね
28 クランプ
31 勾配部

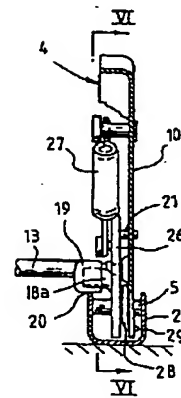
【図1】



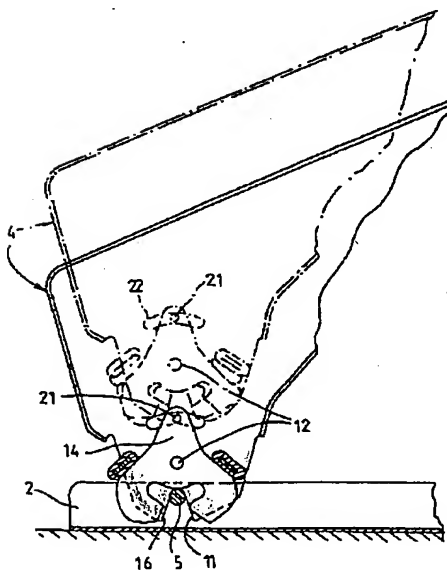
【図2】



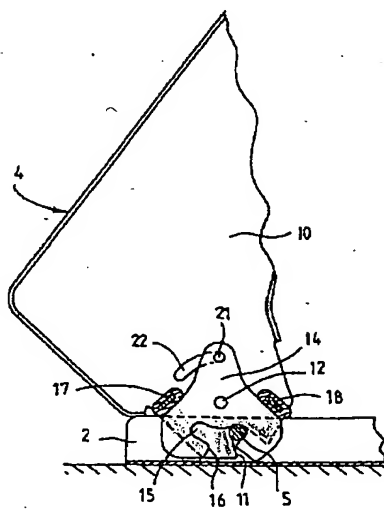
【図7】



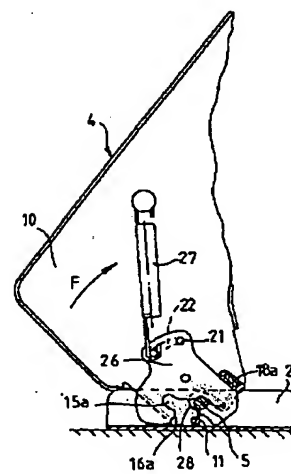
【図3】



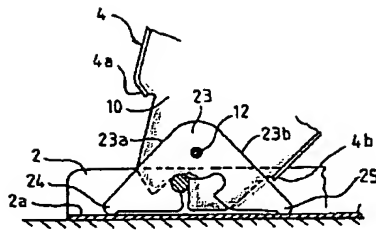
【図4】



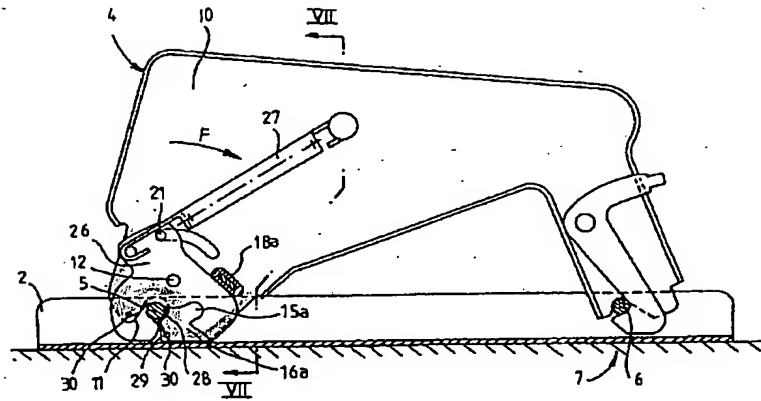
【図9】



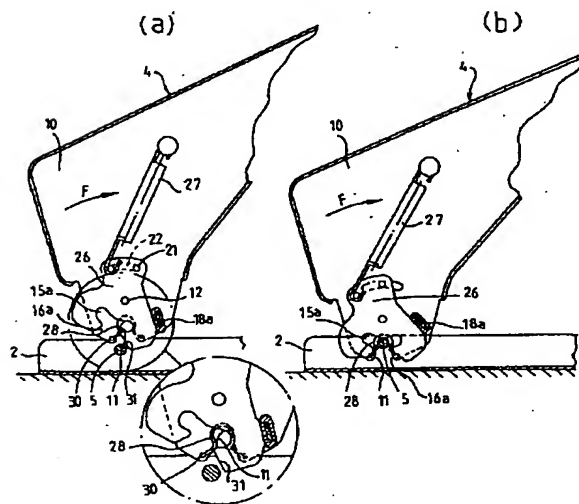
【図5】



【図6】



【図8】



フロントページの続き

(71)出願人 592001687
 ベルトラン フォール オトモビル "ベ
 エファ"
 フランス国マシイ, リュ デュ ソール
 トラビュ 23 ア 29, バルク ダクティ
 ビテ ドユ ムラン ド マシイ

(72)発明者 ジェラルール ジュドックス
 フランス国コルムル アン パリシス, プ
 ールパール デ オウ, 19
 (72)発明者 ディディエル ガリアンヌ
 フランス国ランディゴウ, ロティスメン
 デ クアトル ベン (番地なし)